

MIFA設立30周年記念 第20回 MIFAコンサート

ラオス ルアンパバーンエポックと伝統舞踊



【エポック人形劇】

シートン・マノラーの物語

【ラオス伝統舞踊】

チャンパー花の踊り

モン族伝統舞踊

カム族のバンブーダンス

ルアンパバーン伝統舞踊

ルアンパバーンの新しい日

こんにちはルアンパバーン

子供文化センターとは？

子ども文化センターはラオスの伝統文化継承・維持と子どもたちへの読書推進を目指し設立された学童施設です。ラオス全県に設置され、各県内の子どもたちに向け様々な活動を通した学びの機会を提供しています。

【エポック人形劇】

シートン・マノラーの物語(簡訳)

かつて存在したペンチャンの国は、この世で最も歴史と文化の深い国として知られていました。国王と王妃は正しく国を治め、国の繁栄と幸福のために尽くしていました。

やがて二人に息子が生まれ、名をシートンと名付けました。シートンは生まれながらに弓矢を背負っていたとされ、これは王になるにふさわしく強運な人物であることを示すものでした。



ペンチャン国王と王妃



猟師カタイサーイ

チャンペン国の麓には小さな猟師の町がありました。町人の一人、カタイサーイはある日彼の妻にこう告げます。「これからしばらく長い猟に行ってくる。大きな獲物を捕らえてくれればきっと王にも認めてもらえるだろう。」妻は止めようとしたが、カタイサーイの意思は強く、あつという間に出かけて行ってしまいました。

長い長い旅路の途中、へとへとになり飲み水を探し歩いていると、カタイサーイは森の中に青く澄んだ美しい池があるのを見つけました。たっぷり水を飲み水浴びをするうちに、ほとりでうとうとと寝入ってしまいました。

またとある山深い渓谷にブーグンという国がありました。国王の名をカイケオと言い、カイケオ王にはただ一人の娘がありました。マノラーと名付けられたその娘は、美しい羽根と尾をもつ天女(キンナリー)として、他のキンナリーよりもひとときわ美しい姫に育ちました。

ある日マノラーは水浴びをするためにほかのキンナリーを連れ山の上にある大きな池まで出かけていきました。そこに羽と尾をおろし皆で水浴びを楽しんでいると、木陰から一人覗き見る影がありました。

「あれは世に名高いマノラーではないか！これを国に持ち帰れば大手柄だ！」

カタイサーイはどのようにマノラーを捕まえようか、策を練ります。



マノラーとキンナリー



エポックとは？

エポックはラオスの古都ルアンパバーン県に伝わる木製人形劇です。かつてルアンパバーンがランサーン王国であった1800年代初めから中頃にかけて、国王やその直近の位の高い人々のための娯楽として発達したと言われています。その華やかな装飾や煌びやかで艶やかな人形を見るとかつてのルアンパバン王国の繁栄が見てとれるようです。

年を重ね少しずつ人形作りの技術が向上しより幅広い物語を演舞できるようになったことで、庶民層にもエポックが伝え漏れるようになり、徐々にルアンパバンの名物としてラオス全域で知られるようになりました。

ルアンパバンの主要エンターテインメントとなったエポックですが、しかし、その後の内戦やベトナム戦争の煽りをうけ娯楽としての価値は徐々に失われていくことになりました。その後ルアンパバンは1995年に世界遺産登録され、ルアンパバンはラオスの一都市としてではなく、世界に誇るルアンパバンとして何永く続く伝統や文化を見直し保全する運動が高まりました。

そうとは知らず水浴びを楽しむマノラーとキンナリーたち。
その穏やかな時間を搔っ攫うように、突如、黒い影がマノラーの羽と尾をつかみ奪っていきました。驚いたキンナリーたちは羽をつけるとぱっと飛び上がって逃げていきました。

しかしマノラーは探せども探せども自分の羽を見つけることができません。
そうしている間にカタイスアイは縄に呪いをかけマノラーを捕まえ、ペンチャンの国に連れ帰ってしまいました。

カタイスアイはペンチャンに戻るとすぐに国王にマノラーを捧げました。カタイスアイはマノラーと引き換えにたくさんの金や宝石を手に入れました。

初めは悲しがっていたマノラーでしたが、日を過ごすうちに王子シートンに心を許し、やがて二人は結婚することになりました。しかし幸せな結婚式が終わるやいなや、シートンは隣国からの宣戦布告を受け取ったのです。これは長い戦いになりそうでした。

戦に出なければならない夫にマノラーは花の首飾りを渡し、こう言いました。

マノラーを想う王子シートン

「この花が枯れた時は、私の身になにかが起こった時です。必ず帰ってきてくださいね。」心配になったシートンはマノラーが遠くに飛んでいってしまわぬよう、羽と尾を王妃である母に預けておくことにしました。

シートンが出かけた後、マノラーはいつ帰らぬかも分からない夫を思い、眠ることもできず食べることもできず泣き暮らしました。そんなマノラーの様子を見た王妃は、マノラーを励まそうと盛大なパーティーをひらくことにしました。

たくさんの煌びやかな音楽と踊りが披露される中、マノラーは王妃に「私の羽と尾があればきっともっと綺麗に踊ることができますのに。」と嘆きます。なんとかしてマノラーを元気づけたい王妃は、預かっていた羽と尾をマノラーに渡してしまいました。

羽と尾を身に着けたマノラーは、ぱっと空高く飛んでみせると、皆に力強く告げました。「私はシートンを探しにいきます。」誰も声を発する隙もないままに、天高く飛んで行ってしまいました。

やがてシートンは戦いに勝利し急いで国に帰ってきました。しかしどこを見てもマノラーの姿が見えません。「マノラーは？マノラーはどこに？」両親に尋ねても二人は首をふるばかり。「私が悪いのです。私がマノラーを信じて羽を渡してしまったから…」王妃は自分の間違いを嘆き悲しみました。

シートンにはもうどうすることもできません。

その中でもエポックは継承されるべき文化としてその復活を強く望まれ、2000年にはユニセフ、2015年には日本独立行政法人機構(JICA)の支援を受け、ルアンパバン子ども文化センターの子どもたちにエポック劇の指導が行われました。

エポックの人形は一本の木を伐り出した丸太からできています。1.5メートル程に伐り出した丸太の表面を磨き、端を顔の形や王冠の形、怪物の形などに掘り表情豊かに色塗りが施されます。子ども文化センターで使用しているエポック人形は、ルアンパバン市内にあるシエントン村という所で職人の手によって掘り出されています。その上にセンターの職員や子どもたちが色を塗り、職員が衣装を手作りしています。

人形の作りは単純で、丸太の横に紐で枝を括り付け、その枝を片手で持ち人形を操ります。作りがシンプルである分、繊細な動きを見せるには技術が必要です。例えば人形が拍手をするという動作一つにおいても、頭の位置とバランスや手の動きを考えながら丸太を支え、片手で2本の枝を器用に動かす必要があります。



【伝統舞踊】

ラオスには49の民族グループがあり、そのそれぞれが伝統の歌謡や舞踊、衣装、言語(一部)を有しています。ルアンパバーン子ども文化センターの最も中心的な活動の一つは、このように多様なラオスの文化を維持・継承していくことにあります。

ドック・チャンパー (チャンパー花の踊り)

ラオスの国花であるチャンパー(プルメリア)は、ラオス国民の愛国心と純潔さを象徴しているといわれています。チャンパーの花を見てみると、美しく均一な花びらが均等に重なり合っています。この花びらの様子が、助け合い連帯して生活するラオスの人々の様子を表しているといわれています。チャンパーの踊りはラオス全国で踊られている、ラオス人であれば知らぬものはいない伝統的な踊りの一つです。

ムアン・キン・チアン (モン族伝統舞踊)

モン族伝統の踊り。モン族の新年は農作物の収穫を終えた後、毎年12月の終りに祝われます。モン新年の祝い行事の一つにお見合いがあり、新年には村の若い男女が集まり、毬投げをして交流します。毬投げ中に恋心を表す歌を歌い合い、最後まで歌を歌いながら毬投げを続けることができればお見合い成功です。この踊りではそんな毬投げの様子や歌を歌い合う様子が表されています。

パオクム・トンマイ、ファッカオ、キンラオハイ (クム族のバンブーダンス)

クム(カム)族伝統の踊り。クム族は毎季の収穫期の終わりに、村人同士で米を食べ壺に入った酒(ラオハイ)を飲んでその季節の実りを祝います。祝いの踊りの一つには竹跳びがあり、この踊りの中でもその様子が再現されています。

カプ・トウム・ルアンパバーン(ルアンパバーンの伝統舞踊)

ルアンパバーンを象徴する伝統舞踊です。ルアンパバーンの豊かで深い歴史・文化と、豊かな自然を表しています。ルアンパバーンに多い3民族(順にクム、ラオ、モン族)の伝統衣装を身に着けて踊るのが定番です。

ルアンパバーン・ワン・マイ (ルアンパバーンの新しい日)

近代のルアンパバーンを象徴する踊り。ルアンパバーンの人々が集まり少しずつ街を造り上げ繁栄させていく様子を表しています。新しく拓かれていく町で暮らすのは新鮮で、すがすがしく華やかで、喜びに満ちた日々を過ごしている人々の心の様子を表現しています。

サバイディー・ルアンパバーン (こんにちはルアンパバーン)

ルアンパバーンの人々が旅行者や友人を歓迎し、「サバイディー(こんにちは)」と声をかけながら暖かく迎え入れる様子表現した踊りです。別名「スーン・トンティヤウ・ルアンパバーン(ルアンパバーンに旅行にきてください)」と呼ばれており、観光客や新しくルアンパバーンを訪問する人に向けて踊られる代表的な踊りの一つです。

